

第2次入間市地域福祉活動計画原案

第1章 地域福祉活動計画策定の考え方

- 1 どうして計画が必要になってくるのでしょうか
- 2 計画をつくるうえで大切に考えていること
 - (1) 地域のすべての人を包み支え合える計画づくり
 - (2) 地域の支え合いがつながる計画づくり
- 3 第1次地域福祉活動計画で取り組んだ主な活動の成果
 - (1) 地域の交流活動の広がり
 - (2) 支え合い活動・ボランティア活動の充実
 - (3) 福祉の担い手の広がり
 - (4) 活動者のネットワークの広がり
 - (5) 新しい活動の展開
- 4 地域における課題
 - (1) 地域の支え合い活動づくり
 - (2) 身近な地域での関係・交流の機会づくり
 - (3) 地域活動の担い手の発掘
 - (4) 制度の狭間の生活課題を総合的に支援する仕組みづくり

第2章 地域福祉活動計画の取り組み

- 1 計画の構成について
- 2 活動方針における計画の取り組み
 - (1) 活動方針1 多様な人が交流できる地域をつくろう
 - (2) 活動方針2 快適に暮らせる地域をつくろう
 - (3) 活動方針3 安全・安心に暮らせる地域をつくろう
 - (4) 活動方針4 助け・助けられ上手な地域をつくろう
 - (5) 活動方針5 支え合いの担い手をつくろう
 - (6) 活動方針6 地域のネットワークで生活を支えよう
 - (7) 活動方針7 誰もが必要な支援を受けられる地域にしよう

重点事業 我がまちいるま地域福祉総合的支援活動への取り組み

- 1 第1次地域福祉活動計画における重点事業の成果と課題
- 2 第2次地域福祉活動計画による重点事業 我がまちいるま地域福祉総合的支援活動への取り組み

第3章 地域福祉活動計画の推進に向けて

- 1 計画の推進
 - (1) 住民との連携
 - (2) 市との連携
 - (3) 社会福祉協議会の推進体制
- 2 計画の評価
 - (1) 進行管理
 - (2) 計画の見直し

第1章 地域福祉活動計画策定の考え方

地域の生活課題と向き合い、誰もが安心して暮らせる地域をつくる計画づくり

1. どうして計画が必要になってくるのでしょうか

不安や困り事はありませんか？こんな事気になりませんか？

身の回りのことで
困っている

どこに相談してい
いか分からない

困っていそうな
人がいる



「こんな仕組みがあればいいのに」「こんなことができたらいいな」

地域全体で地域の生活課題を共有し、どんな取り組みが必要かを考え、
入間市の地域福祉のあるべき姿を目指して、取り組む計画が必要です。



社会福祉協議会がこの計画をつくること

地域福祉活動計画は、社会福祉協議会が、地域住民や福祉関係機関や民間企業等と相互協力して、地域福祉の推進を図ることを目的とした行動・活動を体系的に取りまとめ策定した公共的な性格を持つ民間の活動計画です。

平成26年4月に策定した「第1次入間市地域福祉活動計画」の5か年間の取り組みの成果と、今の地域の生活課題、福祉懇談会で出された意見等を基に、地域の方などで構成された策定委員会により、平成31年度から35年度までの5年間で取り組む活動計画です。

2. 計画をつくるうえで大切に考えていること

(1) 地域のすべての人を包み支え合える計画づくり

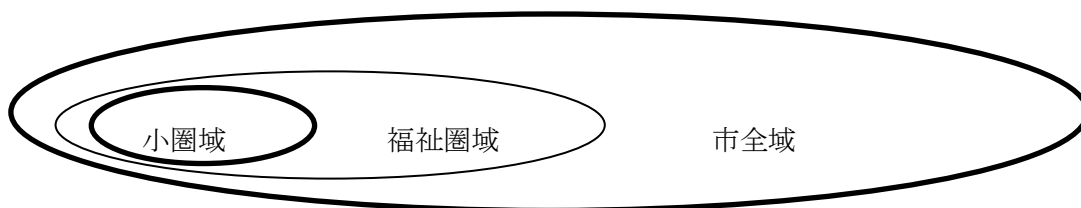
支援を必要とする人というと、高齢者、障害者、子ども、生活困窮者、被災者といった方が考えられる場合が多くあります。一方で、支援を必要とする人の周囲にいる家族や外国人など、福祉の対象とあまり考えられてこなかった人も、困りごとや不安を抱えている場合があります。今は支援を必要としていない人でも、いつ支援が必要になるかわかりません。

誰もが安心して暮らせるよう、地域のすべての人を包み支え合える地域をつくり上げていく計画です。

(2) 地域の支え合いがつながる計画づくり

地域の支え合い活動は、市全域・福祉圏域・小圏域ごとに行なわれる取り組みを広め、多様で重層的に支え合いがつながる地域をつくり上げていく計画です。

区 分	エリア
市全域	市全体
福祉圏域	市内を9つに分けた近隣助け合い活動推進会の区域
小圏域	自治会・団地・マンション等



3 第1次地域福祉活動計画で取り組んだ主な成果

(1) 地域の交流活動の広がり

①いきいきふれあいサロン

サロン活動を行う団体が64団体になりました。また、サロン活動の魅力伝えるサロン大使7名が活躍しています。

②外国人との交流サロン

交流サロンを3回開催し6か国の方の参加がありました。

③サロン活動者の交流

年2回の活動者交流会の実施があり、内1回は3地区に分けての交流会になりました。

④挨拶からの交流

ラジオ体操から交流を行う地区が10地区になりました。

⑤防災から地域の交流づくり

サロンを巡回した「防災を考える講演」を25のサロン交流の会場で行い、近隣助け合い活動推進会与協働し、防災ゲームを取り入れた「防災から交流会」を2地区で行いました。

(2) 支え合い活動・ボランティア活動の充実

①支え合い活動の組織化

近隣助け合い活動推進会の単位で、2つ組織化になり、自治会やマンションの単位で、4つの組織になりました。

②ボランティア活動の登録と派遣

ボランティア活動の登録者が約930人に上り、活動の派遣は約150件になりました。また、ボランティア活動保険加入は約1,900人になりました。

③福祉懇談会の実施

近隣助け合い活動推進会との協働により、全7回の開催になりました。

④福祉シンポジウムの実施

シンポジウムを福祉大会の中に取り込み、全5回の実施になりました。

⑤ボランティア講座の実施

近隣助け合い活動推進会と協働し「障害者理解の講座」は、全地区での実施になりました。

(3) 福祉の担い手の広がり

① 運転ボランティアの養成

運転ボランティア活動の登録者が12名になり、利用件数は約115件になりました。

② 災害ボランティアセンタースタッフの養成

災害ボランティア活動の登録者が15名になり、災害ボランティアセンター事業立ち上げ訓練に協力を依頼しました。

③ 市民後見人養成講座の実施

養成講座基礎編の実施により修了者は19名になりました。

(4) 活動者のネットワークの広がり

① サロン活動者の情報交換会の実施

交流会の年2回の定期的な実施により、サロン活動者のネットワークが広がりました。

② 支援ネットワーク会議の実施

福祉困りごと何でも相談支援センター相談支援ネットワーク会議が15回実施されました。

③ 近隣助け合い活動推進協議会の実施

年3回の定例開催により近隣助け合い活動推進会のネットワークが広がりました。

(5) 新しい活動の展開

① 地域福祉コーディネーターの配置

制度の狭間の課題を相談支援する地域福祉コーディネーターが3名配置されました。

② 福祉困りごと何でも相談支援センターの設置

相談受付総数は920件余りで、延べ対応は14,300回の相談支援になりました。

③ 家庭訪問型子育て支援事業（ホームスタート）の実施

「ホームスタート」のボランティア登録が、12人になり、利用の登録件数は18件で、実利用者が14件になりました。

④ 生活困窮者食料支援サービスの実施

「ホッと安心食事サービス」による困窮者への支援が250件余りになりました。

⑤ 福祉バザーの実施

「福の市」の実施は全3回になり、収益金は生活困窮者支援サービスに活用されました。

4 地域における課題

第1次入間市地域福祉活動計画の取り組みの課題と、福祉懇談会における意見等から地域における課題をまとめました。

(1) 地域の支え合い活動づくり

少子高齢化、核家族化の拡大により、買い物、通院、外出、ゴミ出しなど、日常生活上のことについて困難と感じる方が多くなっています。身近な地域住民による支え合い活動の充実が求められています。

(2) 身近な地域での関係・交流の機会づくり

今、地域では隣近所に住んでいる人との関係性が薄く、「隣近所で気になることがあっても関わりにくい」「困ったことがあっても自分から助けてと言えない」課題があります。

日頃からの関係づくり、気軽に・身近な・だれもが交流できる機会が求められています。

(3) 地域活動の担い手の発掘

地域活動を行っている人たちから、活動に関する担い手の確保・育成について、課題が挙げられています。

地域支え合い活動の取り組みについても、住民同士の助け合いや見守り活動に協力する担い手が必要です。

(4) 制度の挟間の生活課題を総合的に支援する仕組みづくり

複雑・多様化する地域生活の困りごとや課題は、今ある既存のサービスだけでは解決が難しい課題や、一つの家族の中で介護、障害、引きこもり、貧困などの複数の課題を抱えている事例が増えています。また、課題を抱えていても助けを求めない、求められない人も少なくありません。

これらの課題を抱えている人・家族に対して、総合的に相談を受け止め支援する窓口、地域住民と支援に必要な専門機関が連携する仕組みづくり、制度の狭間を支援する新たな社会資源（福祉サービス）の開発が求められています。

第2章 地域福祉活動計画の取り組み

～地域ぐるみで取り組みを進めるために～

1 計画の構成について

基本理念 この計画が目指す入間市の姿 (地域福祉計画と共通)
助け合う住民、支え合う地域、優しさあふれるまち

基本目標 基本理念の実現に向けて3つの目標 (地域福祉計画と共通)

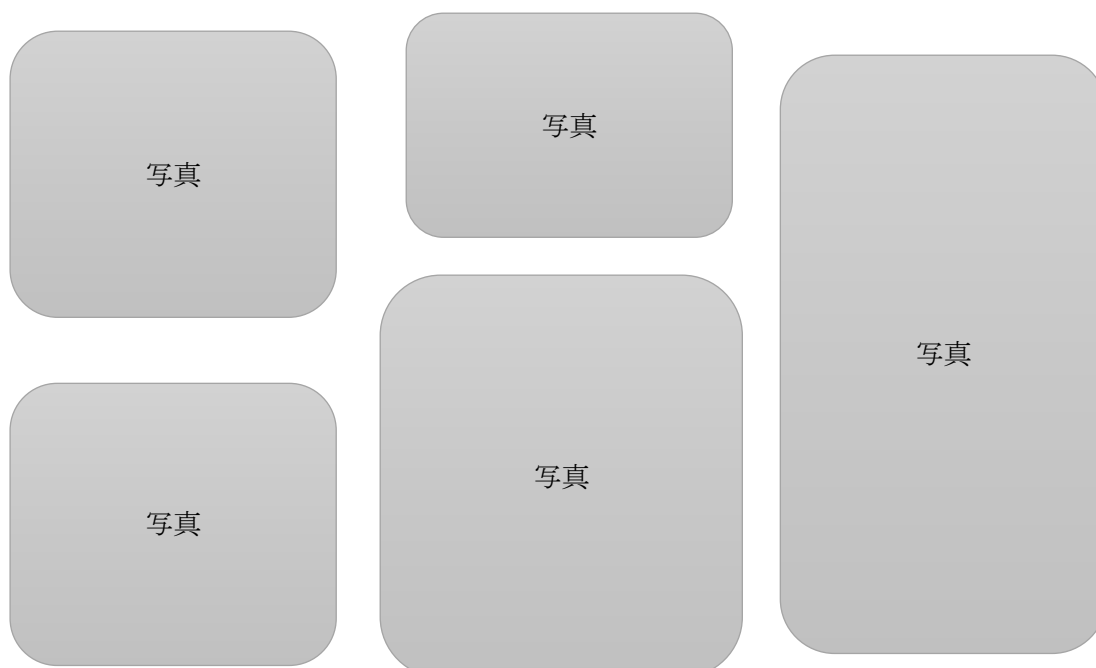
- ・快適に暮らせる地域づくり
- ・支え合いの地域づくり
- ・つながる地域づくり

基本方針 基本目標に向けて活動する7つの方針と重点事業

- (1) 活動方針1 多様な人が交流できる地域をつくろう
- (2) 活動方針2 快適に暮らせる地域をつくろう
- (3) 活動方針3 安全・安心に暮らせる地域をつくろう
- (4) 活動方針4 助け・助けられ上手な地域をつくろう
- (5) 活動方針5 支え合いの担い手をつくろう
- (6) 活動方針6 地域のネットワークで生活を支えよう
- (7) 活動方針7 誰もが必要な支援を受けられる地域にしよう

重点事業 我がまちいるま地域福祉総合的支援活動への取り組み

◆ こんな活動がもっと広がりますように ◆



2 活動方針における計画の取り組み

～地域ぐるみで取り組みを進めるために～

基本目標 快適に暮らせる地域づくり

活動方針1 多様な人が交流できる地域をつくろう

～住民の交流活動の活性化～

成果

- ・ラジオ体操を通した付き合いやあいさつを広めている地区が10地区あり、地域での交流をあいさつから始める機運が広がっています。
- ・あいさつ運動の標語を募集したところ、応募が約100件と多数の応募があったことから、気軽に声を掛け合える意識づくりの準備は図られています。
- ・ふれあいいいきサロン活動が計画開始時の33カ所から64カ所となり、近隣とのつながりを強めるサロン活動の活性化が進みました。
- ・サロン情報交換会を開催し、公募したサロン大使7名の協力により活発な意見交換が行われました。

課題

- ・あいさつ運動を計画以前から取り組んでいる地域もあり、地域住民があいさつは地域づくりへの第一歩であると考えていることから、更に一步進めた「気軽に声を掛け合える地域づくり」への取り組みが必要です。
- ・隣近所との関係の希薄化、高齢化等から自治会活動への参加が減少しています。
- ・外国人、障害者も参加する多様な交流の場が求められています。
- ・活動者の高齢化等から、新たな活動者やリーダーの発掘と養成が求められています。

地域のみなさんの声

ラジオ体操に参加し知り合いが増えました。

あいさつ運動を学校と地域と一緒に取り組めるといいと思います。

課題

多様な人が交流できる地域づくり

サロン交流会に参加し知らない事が多かったので勉強になりました。

外国人が増えたので、コミュニケーションをとれる方法が知りたいです。

住民の取り組む課題と内容	具体的な活動例
<p>①気軽に声を掛け合える地域づくり</p> <p>住民同士が気軽に声を掛け合い、自然に近所付き合いの出来る地域をつくる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ご近所との普段のお付き合いを大切にする。 ○回覧板を手渡しするなど、顔の見える活動を行う。 ○ご近所で声を掛け合い地域活動に参加する。
<p>②地域における交流活動の充実</p> <p>地域の人が気軽に出かける、出会いと多様な交流の活動を広める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の居場所となる多様な交流活動を行う。 ○ご近所で声を掛け合い地域活動に参加する。 ○地域活動の次世代リーダーを応援する。 ○地域活動に若者の企画を取り入れる。

<p>社会福祉協議会の取り組むべき課題</p>	<p>多様な交流活動の展開の支援</p>
<p>(具体的な内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○交流の場を活用した挨拶キャンペーンを展開し、挨拶から住民同士の交流を推進する。 ○身近な場所、空き店舗を活用した交流の場をつくる。 ○多様なサロン活動が更に広がるよう、学習会や情報交換会、啓発活動を行う。 ○サロン活動団体のネットワークによるサロン活動者同士の交流・協働体制を推進する。 	

活動方針2 快適に暮らせる地域をつくろう

～地域のモラルへの関心・地域と学校が一体となった障害者理解～

成果

- ・モラルの向上のための標語を募集したところ、多くの標語が寄せられたことからモラルについて関心を持っている住民が多いことがわかりました。また、自治会を中心としてモラル向上のための取り組みを行う地区もできています。
- ・地区単位で障害者を理解するための講座を開催し、住民の障害に対する理解が深められ、心のバリアフリーにつながっています。
- ・「ボランティア活動のきっかけ」や「心構え」の学びはボランティア活動への足掛かりになりました。

課題

- ・ゴミの収集や分別のモラルに地域差があることから、地域でモラルに対する課題を検討し、地域全体で取り組める方法を検討することが必要です。
- ・ゴミの収集を分かり易くするなど「住民の生活モラルの向上」への取り組みが必要です。
- ・障害者理解のための教育（福祉教育）は、小中学校の総合学習でも取り上げられており、地域と学校が一体となった障害者理解の取り組みとするために、地域住民、学校関係機関との調整が必要です。

地域のみなさんの声

ゴミの分別をしないで出す人がいて困っています。

アイマスク体験をして、見えない不自由さを改めて感じました。

課題

快適な生活環境づくり

空き家が多くなってマナーやモラルの面が心配です。

町の中は整備されたけど、まだ心の面でのバリアがあると思います。

住民の取り組む課題と内容	具体的な活動例
<p>①住民の暮らしのモラルの向上 地域に暮らす住民同士が気持ちよく暮らすための、暮らしのモラルを高める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○気持ちの良いあいさつを交わす。 ○ごみ出し等のルールを分かり易く工夫する。 ○地域の小中学生等による登校時のゴミ出しの助け合い活動を行う。
<p>②バリアフリーの意識と環境づくり 高齢者や障害者の暮らしやすい地域づくりを、当事者の視点から進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ご近所同士思いやりを持って暮らす ○高齢者や障害者のためのマナーを守る。 ○地域と学校が協働した障害者理解の活動を行う。
<p>社会福祉協議会の取り組むべき課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○地域住民が主体的に関われる学習会や体験講座を実施し、バリアフリーの意識と環境づくりの推進
<p>(具体的な内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○住民の身近な場所で、実践的なボランティア体験や学習会を実施する。 ○障害者理解の体験講座や交流会を実施する。 ○標語を活用し、地域モラルの啓発活動を展開する。 ○地域で取り組むモラルを守る活動の推進を支援する。 	

活動方針3 安全・安心に暮らせる地域をつくろう

～地域のつながりから防災・防犯活動への取り組み、移動困難者の支援～

成果

- ・災害に関する講座やモデル的に実施した防災交流会への小中学生の参加により、防災を身近に感じ、地域で協力しようとする意識が高まりました。
- ・サロンにおいて、防災、防犯についての勉強会やキャッチコピー、標語募集の啓発活動により、防災、防犯への意識が高まりました。
- ・運転ボランティアの活躍や地域支え合い組織により、高齢、病気、障害などから自力移動が困難になった人を支える福祉サービスが始まりました。

課題

- ・いざという時のために、一人暮らし高齢者や障害者等、地域で支援を必要とする方たちを、日頃から把握しておく必要があります。
- ・災害ボランティアセンターの立ち上げ運営には、住民の協力が更に必要です。
- ・移動困難者を支援する運転ボランティアの確保が課題となっています。
- ・一人暮らし高齢者や障害者等、地域で生活する支援が必要な人を日常的に手助けする仕組みなど、移動困難者の支援体制を充実させる取り組みが必要です。

地域のみなさんの声

ひとり暮らしの高齢者、障害者と交流があれば、いざという時に安心ですね。

空き家での不審者情報をよく耳にする、地域の見回りも必要です。

防災交流会に参加して様々な人たちとつながれました。

課題 安全・安心に暮らせる地域づくり

運転ボランティアに興味があります。

足が悪く、近くにお店がないし、買い物が不便で困っています。

住民の取り組む課題と内容	具体的な活動例
<p>①地域ぐるみの防災活動の推進 防災に関する意識を高め、身近な防災体制づくりを地域ぐるみで進める。</p>	<p>○家族や地域で防災について話し合い、自主防災会、防災訓練に参加する。 ○日頃から地域の要支援者への声掛け・見守りに取り組む。 ○避難の体制づくりを学校、関係機関と連携・協力してつくる。</p>
<p>②地域ぐるみの防犯活動の推進 地域の防犯を高める顔の見える、地域ぐるみの防犯活動を進める。</p>	<p>○地域であいさつ等声を掛け合う。 ○地域の防犯パトロールに積極的に参加する。 ○ひとり暮らしの高齢者や障害者へ悪質商法・空き巣の被害を未然に防ぐための情報を伝える。</p>
<p>③移動困難者の支援体制づくりの充実 高齢や病気、障害などにより、移動が困難になった人を、日常的に手助けをする仕組みづくりに取り組む。</p>	<p>○ご近所で買い物が困難になった人に、声をかけて買い物に行く。 ○地域の事業者と協働して買い物ツアーバスなどを運行する。 ○移送サービスの運転ボランティアに参加する。</p>

<p>社会福祉協議会の取り組むべき課題</p>	<p>○地域ぐるみの防災・防犯活動の更なる推進</p>
<p>(具体的な内容)</p> <p>○防災・防犯に関する講座や勉強会を小中学校と協働して実施する。 ○災害ボランティア養成講座や防災交流会の取り組みから、防災における切れ目のない地域の協力体制をつくる。 ○実践的な災害ボランティアセンター運営訓練を実施する。 ○移動困難者への支援体制の充実に向けて、運転ボランティアの養成や、地域支え合い活動、事業者等による取り組みを整える。</p>	

基本目標 支え合いの地域づくり

活動方針4 助け・助けられ上手な地域をつくろう

～地域の実情に沿った、支え合い・助け合い～

成果

- ・福祉懇談会を継続して続けてきたことにより、地域の生活課題を知り、地域での「支え合いづくり」に関心を持つ住民が多くなっています。
- ・福祉圏域で2団体、自治会単位などの小圏域で4団体により住民主体の地域支え合い組織による活動が行われています。(平成30年4月現在)
- ・ファミリー・サポート・センター主催のサロン活動により、子育て中の親子が気軽に交流が図られるようになりました。
- ・地域で世代間交流が図られるようなサロン活動が実施され、地域で子育てをするという意識が高まっています。

課題

- ・小圏域の組織における支え合い活動の組織化は進められたが、福祉圏域での組織化が進まないため、助け合いの組織の規模にはとらわれず、小圏域での実施や、福祉圏域での実施による「地域支え合い活動の組織化とその体制づくり」への取り組みが必要です。
- ・地域で子育てを支える意識づくりと環境づくりを進めるためには、子育て関係機関との連携による「子育てを地域で支える環境づくり」への取り組みが必要です。

地域のみなさんの声

高齢者も子どもももっと一緒に交流出来たらいいのと思います。

サポートが終わった後も子どもを気にかけています。

課題

助け・助けられ上手な地域づくり

妊産婦や乳幼児の相談ができる場が少ないです。

ちょっとした事を頼めるような助け合いがもっとあるといいですね。

住民の取り組む課題と内容	具体的な活動例
①地域支え合い活動の組織化と体制づくり 困っている人がSOSを出しやすく、身近な地域でお互い様で助け合える地域をつくる。	○ご近所でちょっとした助け合いを行う。 ○地域の福祉懇談会に参加する。 ○地域の支え合い活動の体制をつくる。 ○地域の支え合い活動に積極的に参加する。
②子育てを地域で支える環境づくり 子育てしやすい地域づくりを、関係機関と連携して行う。	○ご近所の子ども、子育て中の家族等に声を掛ける。 ○子育てに関するボランティア活動に参加する。 ○高齢者から子どもまで交流する多世代のサロン活動を行う。

社会福祉協議会の取り組むべき課題	○助け・助けられ上手な地域づくりの推進
(具体的な内容) ○支え合い活動の学習と交流から、理解を広める活動を地域と協働して実施する。 ○生活支援コーディネーターによる地域の支え合い活動の体制づくりを行う。 ○家庭訪問型子育て支援「ホームスタート」事業の充実を図る。 ○子育て世代、外国人、介護者等誰もが参加する多様なサロンづくりを推進する。	

※「地域支え合い組織」は、地域におけるゴミ出しや草むしりなどのちょっとした家事援助、地域福祉への理解や関心を深めるための学習会の開催、サロン活動などを行う住民の皆さんが主役となり活動している組織です。

入間市では、福祉圏域(9地区)ごとに9つの「近隣助け合い活動推進会」があり、推進会を中心とした「地域支え合い組織」として、「ささえあい東藤沢」(東藤沢地区)、「豊岡第二地区元気にする会」(豊岡地区)の2団体、また自治会単位など小圏域を単位とした「地域支え合い組織」として「グリーンヒルお助け隊」(藤沢地区)、「ささえあい入間台」(東金子地区)、「ささえーるプルミエール」(藤沢地区)、「武蔵台ささえあいの会」(宮寺地区)の4団体(平成30年4月現在)があり、活動しています。

活動方針5 支え合いの担い手をつくろう

～福祉を学ぶ機会と担い手づくり～

成果

- ・外国人との学習会や福祉作業所利用者との交流会、住民主体の地域支え合い活動の実践から、生きづらさを抱えている人たちの現状を知り、お互いに助け・助けられる意識が高まっています。
- ・ボランティアセンターの周知活動、ボランティア活動者と依頼者の情報がデータベース化されたことで、必要な情報を得ることが出来るようになり、地域の人材を活用したボランティア活動が進められました。

課題

- ・学習会や交流会への参加者が一部に限定されがちなため、周知方法や内容を検討し、引き続き「福祉について学ぶ機会づくり」に取り組んでいくことが必要です。
- ・ボランティアの高齢化、後継者不足が問題となっており、地域福祉活動の担いの発掘、リーダーの養成が課題となっています。

地域のみなさんの声

楽しく料理教室に参加
できました。一緒に作っ
てくれた日本人の方が
母のように暖かかった
です。

認知症の家族の方から体験談を
聞いたりして、共有できる場があ
れば参加したいと思います。

課題

支え合いの担い手づくり

耳の不自由な方とのコ
ミュニケーションが難
しく感じます。

ホームページやボラ
ンティア情報誌を見
てたくさんボランテ
ィア活動がある事を
知りました。

住民の取り組む課題と内容	具体的な活動例
<p>①福祉について学ぶ機会づくり 学習会や講座、交流会を通し福祉への理解や地域の生活課題を知り、支え合い活動への関心を高める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ボランティア活動に積極的に参加・協力する。 ○地域福祉懇談会や学習の場に参加する。 ○地域の様々な人が交流する活動に参加・協力する。
<p>②地域福祉活動の担い手の発掘と養成 地域の人材を活かした助け合い活動を行い、次世代のリーダーの養成や、担い手が活動しやすい環境をつくる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○支え合い活動・ボランティア活動者を応援する。 ○支え合い活動の仲間を増やす。 ○高齢者が活躍する地域活動を行う。 ○身近な場所で多様なボランティア活動を行う。

<p>社会福祉協議会の取り組むべき課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○支え合いの担い手づくり
<p>(具体的な内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域福祉及びボランティアに関する学習会及び交流会を実施し、地域活動への理解と次世代の担い手を養成する。 ○生活支援コーディネーターと連携し、支え合い活動の担い手の発掘と養成を行う。 ○支え合い活動者の交流や協力が図れる、ネットワークをつくる。 	

基本目標 つながる地域づくり

活動方針6 地域のネットワークで生活を支えよう

～地域での支え合いと課題解決のための連携～

成果

- ・福祉懇談会を継続して行ってきた結果、地域の生活課題を知り、地域支え合い活動に関心を持つ住民が多くなってきました。
- ・組織規模の違いはありますが、ゴミ出し支援、買い物支援などの地域支え合い活動を行う住民組織が増えました。(平成30年4月現在で市内6カ所)
- ・地区担当職員を配置したことにより、住民と顔の見える関係が図られました。
- ・福祉困りごと何でも相談支援センターを開設し、地域福祉コーディネーターが配置されたことにより、生活の困りごとに関する相談が多数寄せられるようになりました。また、住民の皆さんが、支援を必要としている人を地域福祉コーディネーターにつなげることが出来るようになりました。

課題

- ・困っている人を、その人が暮らす地域の中で支えていくため、社協の地域福祉コーディネーター、住民、福祉の関係者とのネットワークによる総合的な相談支援体制づくりが必要とされています。
- ・地域の課題を地域で解決していくために、今後も地域福祉活動の担い手を養成し、増やしていく必要があります。
- ・制度の狭間の生活課題を支援するサービスの開発に取り組む必要があります。

地域のみなさんの声

困り事相談センターに相談することができ、助かりました。

困り事があっても相談窓口に行く勇気がなかなか出ないで、悩んでいる人がいます。

大きなことはできないけど、出来る範囲で支え合い活動してみたいです。

課題 地域のネットワークづくり

支え合い活動の担い手が中々増えません。

何とか手助けしてあげたいが、認知症や介護が必要な人の家族と連絡が付きにくいことがあります。

住民の取り組む課題と内容	具体的な活動例
<p>①住民活動と福祉関係者との協働の体制づくり</p> <p>多様化する生活課題を、住民と福祉関係者が連携・協働して、支援活動をする体制づくりを進める。</p>	<p>○地域の福祉懇談会や学習会に参加し、地域の生活課題を発見し、共有する。</p> <p>○支え合い活動に積極的に参加し、学び、実践する。</p> <p>○困っている人がいたら、福祉専門機関につながる連携して支援を行う。</p>
<p>②総合的な相談支援の体制づくり</p> <p>困った時に気軽に相談し、その相談を解決するための情報や支援が受けられる地域づくりを進める。</p>	<p>○隣近所や地域に関心を持つようにする。</p> <p>○日頃のあいさつや声掛けから、気軽に相談・情報を得やすい隣近所の関係をつくる。</p> <p>○困っている人がいたら福祉専門機関につながる、連携して支援を行う。(再掲)</p>
<p>③制度の狭間の生活課題を支援するサービスの開発</p> <p>地域生活の多様なニーズに支援できる、新たな地域福祉サービスの開発を、福祉専門機関と協働して行う。</p>	<p>○住民同士で出来る暮らしの助け合い活動を行う。</p> <p>○身近な生活課題や、既存の福祉サービスでは解決できない課題を地域でどのように支援出来るか検討する。</p>

<p>社会福祉協議会の取り組むべき課題</p>	<p>○総合相談体制の充実 <u>重点事業</u></p>
<p>(具体的な内容)</p> <p>○ワンストップの総合相談支援の体制を充実する。</p> <p>○地域福祉コーディネーター配置の充実により、個別支援から地域支援へと連動して展開できる体制を整える。</p> <p>○制度の狭間の生活課題を地域住民と専門職が連携して支援する仕組みをつくる。</p> <p>○地域生活に関わる専門職と横断的な連携・協議が図れるネットワークを充実する。</p>	

活動方針7 誰もが必要な支援を受けられる地域にしよう

～地域で安心して暮らす、地域で活動をするために必要な情報を得る～

成果

- ・ボランティア養成講座や、地域を巡回する障害者理解の講座、災害ボランティア養成講座の参加者が、年々増え地域福祉活動に関する関心が高まりました。
- ・新たな社協の情報を載せたパンフレットの作成により、地域住民から社協活動への問合せが増えています。
- ・地区懇談会の開催、サロン活動の推進によって、情報交換と交流の場が広がりました。
- ・福祉困りごと何でも相談支援センターが開設され、総合相談支援活動が進みました。

課題

- ・誰もが支援に必要な情報を得られる地域づくりのため、情報を得られにくい人の理解、地域の様々な福祉課題を解決するための関係者間の情報共有、情報提供がスムーズにできる仕組みが求められています。

地域のみなさんの声

子育てサロンに参加し、相談をしたり、先輩ママと話すことができ、励みになりました。

視覚障害の方を見かけるたびに何か自分にも手伝えることがないかと思っていたので、講座に参加しました。

課題

誰もが必要な支援を受けられる地域づくり

個人情報で名簿の扱い方が難しくなりました。

ボランティア活動をしたいけど、情報やきっかけがつかめません。

地域の人から相談を受ける立場だが、困った時に相談できる所があるのでありがたいです。

	具体的な活動例
<p>①誰もが必要な支援を受けられるよう多様な方法による情報提供を行う。</p> <p>孤立しがちな高齢者や障害者に、必要な支援や情報が行き届くよう、地域の支え合い活動と福祉関係機関が連携、協働する。</p>	<p>○日頃から地域の高齢者や障害者に声掛け・見守り活動を行う。(再掲)</p> <p>○地域の掲示板を活用した情報の提供を行う。</p> <p>○地域の交流場所や福祉の研修、講座に参加し情報を得る。</p> <p>○困った時は、地域の支え合い活動組織や福祉の相談機関に相談する。</p>

<p>社会福祉協議会の取り組むべき課題</p>	<p>○総合相談体制の充実 <u>重点事業(再掲)</u></p>
<p>(具体的な内容)</p> <p>○相談しやすい総合相談窓口を運営する。</p> <p>○住民が気軽に情報交換・交流できる場を設ける。</p> <p>○地域支援に必要な福祉サービスの情報収集と情報提供を、多様な方法により行う。</p> <p>○福祉サービス利用援助事業及び成年後見制度の研修会を実施し、制度の周知及び利用の促進を図る。</p>	

重点事業

我がまちいるま地域福祉総合的支援活動への取り組み

地域で生活している人が抱える福祉課題は、困り事が重なり悩み事をどこにも相談できず孤立し、今ある福祉制度では解決の方法がない制度の狭間にあることも多く、問題が深刻化する傾向があります。

本計画による「我がまちいるま地域福祉総合的支援活動の取り組み」にむけて、第1次地域福祉活動計画の成果と課題を踏まえて、困っている人の身近にいる地域住民が主体的にかかわり、行政・社会福祉協議会・地域福祉推進(保健・福祉・医療・教育)機関・関係団体や、地域の社会資源(NPO・子ども食堂・商店・企業等)が連携・協働して支援し、解決が図られる仕組みを構築する、入間市の地域福祉総合的支援活動を推進して行きます。

また、高齢者・子ども・障害者などの方々が、同じ地域で暮らし生きがいを共につくり高め合うことができる、地域共生社会の実現を目指します。

1 第1次地域福祉活動計画における重点事業の成果と課題

大きく2つの活動(1)地域支え合い組織の展開(2)住民活動と地域福祉専門職との協働の仕組み・コミュニティーソーシャルワークの展開を推進しました。

(1) 地域支え合い組織の展開

成果

支え合い活動の組織化は福祉圏域で2団体、小圏域で4団体により活動が実践されました。

また、近隣助け合い活動推進会との協働による福祉懇談会や、情報交換会の定例化により、地域の生活課題の気づきから、制度の狭間の生活課題を支援する地域の支え合い活動を更に推進していく意識が高まっています。

課題

福祉圏域での支え合い活動の組織化に比べ、より身近な地域住民の小圏域による支え合い活動が、支援をしやすい事が挙げられています。多様で重層的に地域の支え合い活動がつながる、入間市の地域支え合い組織の展開を図る必要があります。

(2) 住民活動と地域福祉専門職との協働の仕組み・コミュニティーソーシャルワークの展開

成果

地域福祉コーディネーターが3名配置され、「福祉困りごと何でも相談支援センター」設置により、高齢・子ども・障害・生活困窮などの対象を問わず相談を受け、相談の内容は、個人の相談の他、支え合い活動についての相談などがあります。

その相談支援の対応においては、支援に必要な地域住民、行政、関係機関の専門職につないだり、連携して支援が行われるようになりました。

課題

複雑・多様化する相談や生活困窮者への支援は、地域福祉コーディネーターの支援では及ばず、相談者の身近な住民による支援や、福祉関係機関・団体と連携・協働していく支援ネットワーク会議等の仕組みを整え、住民活動と地域福祉専門職との協働の仕組み・コミュニティソーシャルワークの展開を図る必要があります。

2 第2次地域福祉活動計画による重点事業

我がまちいるま地域福祉総合的支援活動への取り組み



取り組みの内容

(1) 地域支え合い活動の充実

- ① 多様で重層的な地域支え合い活動の推進を図るため、支え合い活動の推進体制の基盤を見直し整える。
 - ・地域支え合い組織の現状と課題の把握
- ② 近隣助け合い活動推進会の活動体制を検討し充実を図る。
- ③ 生活支援体制整備事業の推進による、地域支え合い活動への取り組みを行う。
 - ・地域福祉コーディネーターと生活支援コーディネーターの支え合い活動への連携支援
 - ・困っている人を支援する地域のネットワークづくり

(2) 住民活動と地域福祉専門職との協働の仕組み・コミュニティソーシャルワークの充実

- ① 地域福祉コーディネーター配置の充足による総合的相談支援体制を充実する。
- ② 制度の挟間の生活課題を地域住民と専門職が連携して支援する仕組みをつくる。
 - ・支援ネットワークの会議や合同事例検討会の実施
 - ・新たな社会資源（福祉サービス）の開発
- ③ 生活困窮者への生活支援を関係機関との連携により充実する。

活動例

第1次地域福祉活動計画の重点事業によるA子さん家族へのアプローチ

某市郊外で生活している娘のA子さんのことを、実家のお母さんはとても心配しています。

「A子の旦那はリストラされ、お酒ばかり飲んでいて・・・」

A子さん一家は、寝たきりのおばあちゃんと、不登校ぎみの子どもがいます。団地で安定した生活を送っていたのですが、家族の問題が重なり困り果てていました。

A子さんのこころの叫び

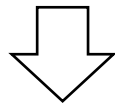
どこに相談に行ったらいいのだろう・・・

だれか私の悩みを聞いて・・・

わたしが病気になったら、おばあちゃんの介護、子どもの世話、家事はどうなるの？


第1次地域福祉活動計画の地域福祉総合的支援活動により実現した事業


- ① 地域福祉コーディネーターの3名配置
- ② 福祉困りごと何でも相談支援センターの設置
- ③ 住民と専門職の支援ネットワーク会議の開催




(この事業によりA子さん家族にアプローチできた事)

- ① A子さんは、「地域福祉コーディネーター」による相談支援の窓口「福祉困りごと何でも相談支援センター」に相談に来ました。
↓
- ② 相談を受けた「地域福祉コーディネーター」は、地域住民と専門機関が連携・協働し支援を行う事が必要と考え、支援に必要な専門職と地域住民による「支援ネットワーク会議」を開催しました。
↓
- ③ A子さん家族への「支援ネットワーク会議」により、地域住民と専門機関は、次のようなアプローチをおこない、A子さん家族は新たな一歩を踏み出す事ができました。

寝たきりのおばあちゃん＝地域包括支援センターによる介護保険制度サービスを活用

不登校気味の子ども＝スクールソーシャルワーカーによる相談支援
地域の区長さんによるお祭り等の参加呼びかけ

お酒ばかり飲んでいる夫＝保健師さんの関わりから当事者の会主催のピアサークルへの参加



A子さん＝民生委員さんによる地域のサロンへのお誘いにより、地域の人との交流から悩みのストレスを軽減

活動例

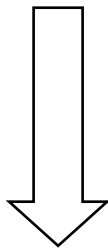
第2次地域福祉活動計画の重点事業によるA子さん家族へのその後のアプローチ

A子さん家族のその後

おばあさんの介護保険サービスの利用により、Aさんは、自分の介護の経験を活かしたホームヘルパーの仕事をしています。夫は、アルコール依存症の当事者の会に参加はしていますが、何をするわけではなく無気力感を感じています。

引きこもり状態の子どもは、なかなか改善されず部屋に閉じこもり、パソコンでネットゲームに依存する日々を送っているようです。

- 夫と、引きこもり状態の子どもへのアプローチ
地域の居場所での交流と役割感を持って暮らす支援。
- おばあさんのこれからの介護とA子さんへのアプローチ
介護の充実と心のストレスを軽減できる支援。



(1) 地域支え合い活動の充実

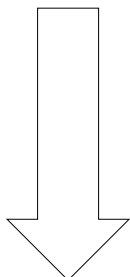
地域支え合い活動は、住民力を活かした生活課題を支援する組織づくりです。入間市では、福祉圏域（近隣助け合い活動推進会）単位の組織化を目指していきます。住民力を活かした「見守り・声かけ活動」「交流活動」「生活支援活動」等の活動を充実します。

- ① 「多様で重層的な地域支え合い活動の推進の仕組みづくり」の取り組みにより
無気力感を感じている夫へ
 - ・身近な場所で行われている地域サロンへの参加を促す支援を行います。
 - ・住民による多様な地域の支え合い活動が組織化されていたので、地域助け合い活動の担い手として地域デビューを支援します。
- ② 「近隣助け合い活動推進会の活動体制の検討と充実」の取り組みにより
ネットゲーム依存の子どもへ
 - ・得意なパソコンを活かして、地域のサロンのチラシの作成やパソコン教室のボランティアの参加を促す支援を行います。
- ③ 「生活支援体制整備事業の推進による地域支え合い活動」の取り組みにより
介護のおばあさんへ
 - ・地域福祉コーディネーターと、生活支援体制整備事業の生活支援コーディネーターにより取り組む、地域支え合い活動とその組織化による高齢者同士の見守りによる支援を行います。

ストレスを感じているA子さんへ

- ・介護の専門的技術を活かし支え合い活動への担い手として、地域でのボランティア活動を促す支援を行います。

♥ A子さん家族のような制度の挟間・一家に複合する生活課題を総合的支援



(2) 住民活動と地域福祉専門職との協働の仕組み

- ・コミュニティーソーシャルワークの充実の取り組みにより地域で困り事が重なり孤立し、制度の挟間で必要な支援に結ばれていない人を、同じ地域で暮らす住民の気づきを活かし、専門職の支援につなげたり、その人らしく地域で暮らす支援への取り組みです。

① 「総合相談支援の仕組みを充実」の取り組みにより

地域福祉コーディネーターの配置を充足することによる、Aさんの家族のような制度の挟間の福祉課題の相談を受け、支援に必要な専門職や地域住民につながり総合相談支援窓口の「福祉困りごと何でも相談支援センター」を充実します。

② 「制度の挟間の生活課題を地域住民と専門職が連携して支援する仕組みづくり」の取り組みにより

Aさんの家族の身近に暮らす地域住民の活動と、専門職が連携・協働して支援を図っていくための具体的な仕組みづくりを行います。
また、現行の制度では支援が困難な課題に対応する、新たな社会資源（福祉サービス）の開発を行う場の仕組みを関係機関とつくります。

③ 「生活困窮者への生活支援を関係機関との連携により充実」の取り組みにより

ちょっとした生活課題のつまずきから、一時的に生活が困窮する相談も顕在しています。生活困窮に至った場合、食料支援など必要な支援をフードバンク等の関係機関との連携により支援を充実します。

第3章 地域福祉活動計画の推進に向けて

1. 計画の推進

(1) 地域住民との連携

地域福祉活動計画を推進するために、地域住民、自治会、民生委員・児童委員、福祉関係事業者等との連携を図ります。

(2) 市との連携

入間市が策定した「第3次入間市地域福祉計画」との連携を図りながら、本計画を推進します。

(3) 社会福祉協議会の推進体制

活動計画に掲げた事業の実現に向けて、平成31年度から平成35年度までの5か年の年次計画を具体的に定めた「第2次入間市社会福祉協議会地域福祉活動推進5か年計画」を策定し、本計画の推進を図っていきます。

2. 計画の評価

(1) 進行管理

計画の評価については、毎事業年度終了後、地域福祉活動計画推進委員会（仮称）にて行います。また、その結果を住民に公表します。

(2) 計画の見直し

計画の推進状況の点検とともに、地域ニーズや福祉課題の変化に合わせ、柔軟に計画の見直しを行います。

